

2003～2004 年度のテーマ「－喜びを分かち合おう・支えあえる仲間になろう－」

第96回例会報告（司会 田中例会委員長）

日時 平成15年10月9日（木）午後0時30分～2時30分

場所 エルシー八王子4階

出席者 会員50名（出席率79%）

来賓 八王子南RC 加賀谷恵会長

1 会長挨拶

皆様こんにちは。今日はお忙しい中を東京八王子南ロータリークラブの加賀谷会長のご出席を頂き有り難うございます。キンモクセイが咲いているというのに、ストーブを入れるという不順な天候でございますが、皆様一ヶ月如何お過ごしでございましたでしょうか。お元気な顔が並んでいるお姿を見て、嬉しく存じます。つい先日の新聞で、面白い記事を見たのですが、「長寿大国日本の秘密は」という外国のメディアが発信したものです。その中で、殆どのメディアは科学的な解釈としては、精神的なゆとり、食生活にあるといっていますが、英国のデイリーテレグラフの着目点は大豆食品だそうです。納豆の中には更年期障害を抑制する成分があるといわれています。それから、布団の上げ下げ、和式のトイレ等は非常に筋肉を動かすので、高齢者の長寿に貢献していると書かれています。アメリカのタイム誌は、カロリーを採る量が世界の中で20%位低いから、但し若年層はファストフードのカロリーの高い食品を取っているのでランクが落ちるだろう、と述べています。英国のタイムズは、魚中心の和食が長寿の秘訣ではないかと書いています。

最終的には長寿の理由は「解けそうで解けない謎」とされ、神のみぞ知ると結論付けていました。

日本で100歳を越えた方が2万人いると発表されており、八王子市内でも、はちおうじ健康づくり推進協議会が11月4日に発足いたしますが、下は助産婦会といえますから、おなかの赤ちゃん、上は八老連という高齢者の組織まで、全市を挙げて種々の団体で構成されています。

この協議会の活動の大きな柱の一つは「レクリエーション」、色々な遊びの中からよくよしないでリラックスしたものが健康づくりに役立つ、二つ目は「体力づくり」、運動で健康を保つ、三つ目は「医療」で病気になったらいち早く対応しようというものです。私共の年齢になると、健康づくりがどんなに大切な、ベッドの中での長生きよりも、クラブ活動しながら長生きする方がベターではないかと思えます。

私事で恐縮ですが、今日は誕生日でございます。丁度、長女の社会的育成指導に手を染めたのが36年前であり、振り返ってみますと人生の半分を奉仕活動に従事しており、区切りの良い年度です。奉仕活動は自分自身に戻ってくるものが多く、自分が与えたものよりも子供達の笑顔の中からパワーを貰い、多くの仲間がで、色々なところで支えていただいております。昔、修身の時間に「情けは人のためならず」と教わったと思いますが、この年齢になって本当に自分の為なんだと、自分の為、人の為に奉仕をしたら自分の所に戻ってくるのだ、と実感し、この年齢まで病気一つせずに飛び回れた体を産んでくれた親に感謝し、支えてくれた多くの人達にも感謝しながら歩んでゆきたいと思えます。

皆様も地域社会に奉仕すると言うことは、与えることばかりでは無いのだと考えて頂きたいと思えます。これから、いちようまつり、学習サロン等地域に対する奉仕活動が続きますが、クラブ会員、全員で力を合わせて頑張ってください。来月の野外研修サロンを楽しみにして、この一ヶ月をお元気にお過ごし下さい。

2 来賓挨拶 八王子南ロータリークラブ 加賀谷会長

皆さん、今日は。我々の例会ですと先週に続いてということになりますが、一ヶ月は早いものですね。お陰様で私も南ロータリークラブで3ヶ月間をクリアしました。順調に推移しており、クラブの皆様に感謝を申し述べたところです。立川会長さんはじめ、会員皆様もますます順風満帆に来ておられ、先月お伺いした時に多摩ロータリークラブの人達がプロバスクラブを作りたいということで来所されましたが、八王子プロバスクラブの名前が世の中に通ってきた証拠だと思います。大変勉強になり参考にしたと言って帰りましたが、私共も素晴らしいことだと思います。

20周年事業も近くなり、プロバスクラブは10年というわけで、折角だから一緒にやったらどうかという意見も一部会員からあり、差し支えなければ、プロバス次期会長さんとも相談してゆきたいと考えております。時期は2月の18、19日あたりを予定しておりますが、2年といってもすぐ来てしまいますので、前もってお話しさせていただきます。またゴルフのお誘いを頂き、一組の杵を作って貰い有り難うございました。

当クラブも、来年5月にロータリークラブ世界大会、地区大会等イベントが続きますが、その合間の3月には合同コンペを計画しておりますので、是非多数のご参加を頂けるようご案内申し上げます。

3 幹事報告(下山幹事)

幹事報告のあと、鶴田副幹事より報告がありますので、よろしくお願いいたします。

- 1) 国境を越えたボランティア活動の八王子ボランティアネットワークの講演会(10月25日)のチケットが残っており、本日申し込みを受付ける
- 2) 大阪プロバスクラブ(全日本プロバスクラブ事務局)から、オーストラリア・ケアンズ市で、プロバス国際ランデブー2003が開催され、日本から大阪と鹿児島クラブが参加したとの報告があった
- 3) 各クラブ宛に生涯学習サロンの資料を送付しているが、尼崎プロバスクラブから「生涯学習サロンの成功おめでとうございます。八王子プロバスクラブを尊敬しております。」との礼状が届いた(鶴田副幹事)

「プロバスクラブとは」という小冊子を配布しましたのでご覧下さい。ロータリークラブのホームページには「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」の4つが謳われており、その中の「社会奉仕」の項目の中にプロバスクラブについて書かれているので、その概要を説明します。

(小冊子により説明のため、省略)

また、このホームページの中で、八王子プロバスクラブの「生涯学習サロン」についての紹介も掲載されています。

4 委員会報告

○例会委員会(田中委員長)

- ・毎例会では、出欠の人数を早く正確に掌握し、食事の手配等行っておりますが、当日の朝になっても欠席連絡のない方がおります。本日も4名が無断欠席となっております。今後このようなことがないように、ご協力をお願いいたします。
- ・次回例会11月13日は野外研修と一緒にあります。

○情報委員会(武田委員長)

- ・プロバスだよりの投稿お願いの用紙を配布しました。よろしくお願いいたします。
- ・プロバス広場欄(不定期な記事)を設け、同好会の案内を掲載しました。同好会に参加したい、新しく仲間を誘い同好会を作りたい時は、当該同好会または研修委員会に申請してください。
- ・会員の動き欄では皆さんの活動の紹介をしますので、情報をお寄せ下さい。
- ・ホームページの開設について、10月2日理事会でプレゼンテーションを行いました。年内に纏め、1月1日に公開できたらと思います。内容としては当クラブの経歴、生涯学習サロンテーマ紹介を掲載します。

○会員委員会(中野委員長)

新規加入希望者が1名あり、審査する事にします。

○研修委員会(須藤委員長)

- ・11月13日野外研修の参加費5,000円を集めさせていただきました。現在、48名の参加者となっております。以後、都合が悪くなった方は早めにお知らせ下さい。トイレ付きバスの要望については、参加人員を考慮の上、例会委員会で検討・決定致します。当日は朝7時と早いのですが、一日だけ早起きして下さい。また、身軽な服装で参加して下さい。
- ・研修につきご意見・要望がありましたらお知らせ下さい。

○地域奉仕委員会(宮崎委員長)

- ・先月の例会で皆様にアンケートのお願いを致しましたが、全員に近い回答がありお礼申し上げます。これを元に、来年の学習サロンの話し手を委員会で選ばさせていただきます。後日、会長と委員長名でご依頼いたします。その折には、400字程度の話の概要、希望日時をご提出下さい。今回のテーマは「緑と環境づくり」とし、関連するテーマを選びます。
- ・いちょうまつりでの協力は、従来、八王子図書館で不要となった本を配布していましたが、今年は新しい企画で、小中学生に描いて貰った絵を、展示するお手伝いをするようになりました。絵は「ふるさとの歴史」がテーマで、文化的な行事を中心に、美術大学や、小中学校の先生、プロバスクラブ担当者で選定・表彰し、いちょうまつりの期間中、作品を中央図書館に展示します。
- ・野外サロン当日、いちょうまつりの手形を販売しますので、ご協力お願いします。

5 卓話(橋本鋼二会員)

テーマ：国際協力事業団の技術協力に参加した経験から私の今回の話は、国際協力事業団(JICA)の地域協力について、配布のレジュメによりお話しします。農水省に勤め、幾度か技術協力や交流に加わってプロジェクトに参加、また海外研修生の受け入れも行いました。農水省を退職後、2001年まで三年半の間、大豆生産技術協力のチームリーダーとして活動しました。

JICA：本年の10月1日独立行政法人化

(1) JICA技術協力の種類

- ① 専門家派遣 技術や経験を伝えるが、国際機関から要請を受け日本人の専門家を現地に派遣する。分野をいうと公共公益事業や農業水産業、エネルギー、商業、観光、保健医療、社会福祉等様々な業種があり、

現地で知識を伝え、途上国の人づくりに貢献している。期間は1年以上と1年以下があり 110カ国で1750名派遣。

- ② 研修員受け入れ 技術や経験を学ぶことだが、先方の行政マンや技術者を日本に呼んで官公庁や大学、自治体等で研修させ、タイ、韓国、インドネシア、パラグアイで東南アジアが多い。
 - ③ 機材供与 必要な機材を送るが、機材のみを送っても機械は動かないので、農機具、工作機械、通信機、医療器具等が使えるようになるまで、人とのつながりが前提となっている。日本人技術者が帰った後に、日本で学んだ研修生達が知識を活かし動かしている。
 - ④ プロジェクト方式技術協力人材育成と機材供与を組み合わせ、プロジェクトを作るのだが、数名の専門家が長期常駐して各分野に分かれ指導している。
 - ⑤ ボランティア派遣青年海外協力隊やシニア海外ボランティアなど、国民参加型の国際協力でJICAが一般市民から募集、シニアは40歳から70歳の人で、現地人と共に先方で国づくりを手伝うが、分野はスポーツや語学関係まで幅広く含まれている。募集には50カ国300名とある。
 - ⑥ 開発調査 途上国に対して、開発の青写真作りやアドバイスなどを行う。
2. 協力分野
- ① 食料分野 生産能力向上、開発、農業経営・農民組織の指導
 - ② 環境分野 環境の汚染対策
 - ③ その他の分野 産業分野、保険・医療分野、教育、国の政策作りなどの分野
 - ④ 技術協力以外の協力 無償資金協力で学校や病院を作ったり、時には地震や水害の緊急援助もある。その他日系人移住者への融資や子弟の日本語教育など。

私の技術協力経験

1. パラグアイ

南米大陸の中央にある内陸国で、面積は日本並み、人口は北海道くらいで大豆の輸出は世界第4位の農業国である。日本から1950年～1960年の高度成長の直前まで移住が進み、移住地を開拓して、大豆・小麦などを生産している。人によっては、都会に出て商工業、医療、教育などの分野にも進出し、現在では二世、三世を加えて約7,000人の日系人が居住している。日本の国際協力は南米ではブラジルに次いで重要視され、技術協力、経済協力、金銭融資などの協力もある。農業移住者が多かったが、外国での暮らしでは言葉の問題から始まり、必ずしも専門家ではない様々な人達が移住し、一家で50ヘクタールを割り当てられ、森林を開拓したが、途中で離脱した人も少なくなかった。

2. パラグアイにおける日本の技術協力事例

専門家の派遣は、個別とプロジェクトのみで60人前後、ボランティア派遣は、青年協力隊が40～50人に移住者の日系人数名、シニアは数名と移住者の日系人1名、研修員の受け入れは100名前後、予算は91年～95年間で168億円と言われている。

3. プロジェクト方式技術供与

農業では大豆研究・小農家向け野菜・特定地域水利開発、医療では健康・看護・助産婦継続強化、環境では造林・湖の汚染調査、産業では測定計器の指導・職業能力促進センターの建設

4. 大豆研究プロジェクトの狙いと成果

今までに多くの協力が行われ、日系移住者がバイオニアになって、大豆栽培が発展した。安定生産と生産地拡大のために、必要な試験研究について5名のチームで活動。研究機関の整備と研究者の養成に協力。成果は新しい品種の育成や土壌の異なる放牧地での大豆栽培、人工衛星を利用した土壌診断などが挙げられる。JICAの技術協力の基本は現場主義で、相手の国の人と一緒になって、目標に向けて努力しやりのある仕事である。

6. その他

- ① お茶の会（矢崎安弘会員） 10月26日・10時30分 市民文化祭の一環でクリエイトホールにて行われる茶会に7名参加予定。
- ② 囲碁の会（矢崎安弘会員） 10月23/24日 藤野・陣谷温泉 14名参加申し込み。
- ③ 桑と健康のお話（大野聖二会員） 配付資料「桑と健康の話」「健康と美容に桑でまちおこし」により説明があった。機会を見つけ、桑の葉でできた商品を紹介したい。
長町幸雄会員から、桑の効用について、糖尿病にきくとのこと、また前橋市も桑の都の本家と主張しているなどの話があった。

7. プロバスソング斉唱

8. 閉会（大高副会長）

4日ほど昔の会社の仲間17名で、私が運転手となり山形・福島・新潟へと行った。米沢へ「なせばなるなさねばならぬ・・・」上杉神社・記念館を訪ねた。昨年20名だったが欠ける人もでた。健康でありたいので、無理をせず風邪を引かず、毎日感謝の気持ちで過ごしたいと思う。
次回、野外例会でまたお会いしましょう。

立川会長の誕生日お祝いとして、加賀谷南RC会長から記念のワイン・時計のプレゼントがあった。

次回例会 11月13日（木）、野外研修と合併 集合：午前7時JR八王子駅南口

◎投稿

横浜プロバスクラブを訪れて

平原 俊彦

去る10月10日、横浜プロバスクラブの例会に出席し、我が東京八王子プロバスクラブについて「八王子プロバスクラブの歩んだ道」と題する話をしてきました。横浜プロバスクラブは設立されたのが約3年前、私たちも多少なりともお力添えをして、今日に至っています。最近同クラブより、一時40名いた会員が頓に減少しつつあり、活動もう一つ活発でない、そこで、全国的にも最大の会員を擁し、積極的に活動している八王子プロバスクラブの状況について話をしたい、との依頼があり、その要請に応えたものです。



当日の例会は、馬車道にあるレストランで実施、出席者は全会員27名中、18名（内女性2名）でした。昼食後、1時間半程タイトルの話をし、更に席を代えて喫

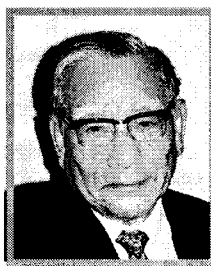
茶部で、中心メンバーの方々と懇談しました。

私は、タイトルにある様に我がクラブの設立から現在の活動の状況までを、資料をもっていろいろと説明しました。同時に、今年度の活動方針である「仲間意識を高めるためのクラブ活動並びに対外的な活動の展開」について、結成以来の運営方針である「会員の連帯と地域への知的貢献」を元に、具体的に話をしました。横浜の会員の皆さんは大変熱心に耳を傾けて下さり、いろいろな質問が出ました。中でも多かったのは、①会員を増加するには、②会員に魅力を持たせるには、などの質問です。それには何と言っても、全員が参加し色々な活動を自らの手作りで、実行してゆくこと、これにより参加意識が高まり、同時に会員増加に繋がるのではないかと話しました。また、ロータリークラブとの連携が希薄な様なので、これにはお互いに交流を盛んにすべき、との意見を述べました。加えて、会員の平均年齢が高いようなので（平均70数歳）、もっと若い（といっても60歳以上ですが）会員を増やすべきではないか、ともお話ししました。最後の懇談では、色々な話題で話に花が咲き、終わる時を忘れるほどでありました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇



美女軍団に囲まれた ありし日の須藤さん



須藤英雄君の 急逝を悼んで

矢崎 安弘

須藤君が10月26日（日曜日）15時05分に急逝されました。虫の知らせか日曜日の夜、囚らずも須藤宅に電話をし「いらっしや

いますか？」と言ったところ、「主人は今日、亡くなりました」と言われ、愕然としました。まさに青天の霹靂とはこのことです。普段は病気の話などしたことは無く、共に仕事をし、楽しく酒を酌み交わし、歌をうたい、語りあった仲でした。ごく最近になって、喉の左側のリンパ腺がはれて医者に行き切開したところ、精密検査を即刻受けるようにいわれたと言って、医療センターへ検査のため通っていたのです。奥さんに伺ったところ、肺ガンと肝臓ガンになっていたとのことでした。

顧みますと、須藤君とは同じ中学、高校に通った同期の桜でした。学部こそ違いましたが、同じ大学でした。共に過ごした学生時代といえますと、昭和20年4月に東京府立第二中学校（現在の立川高校）に入学し、その年の8月に終戦となり、その後、新制中学、更に新制高校となるなど学校制度がめまぐるしく変わる時代でした。

。中学に入りますと、A組からH組まで8クラスもあり、同学年の生徒数は300名を超える大所帯でした。中学・高校の6年間に何回も何回もクラス替えがあり、須藤君と同じクラスになったときもあれば別れ別れになった時期もありました。少なくとも卒業直前の高3クラスの面々は、比較的覚えていますが、その中には須藤君は入っていませんでした。なにしろ50数年前のことですのではっきりは覚えていませんが、須藤君はその当時、弁舌爽やかでマルクス主義に凝っていたように記憶しています。

私のプロバスクラブへの入会に当たっては紹介者になって貰いました。入会直後に配属されたのは例会委員会で、須藤君が委員長で、いろいろと指導を受けました。また死の直前まで研修委員長で、またここで私は一緒に副委員長として補佐してまいりました。

この間、彼の仕事熱心さや、細かい気配り、緻密な計画の立て方など大変感心させられたものです。人格円満にして、かつ指導力を持った人でした。人生80年の時代になって、未だ10年あったのに、と思うと残念でなりません。ご家族は、奥さんと息子さん二人、娘さん一人おり、お子さん達はみな立派に成人されており、その点では須藤君も心残りは無いと信じます。最後に、亡き友の冥福を皆さんと共に祈る次第です。

合掌

2003～2004 年度のテーマ「－喜びを分かち合おう・支えあえる仲間になろう－」

第97回例会報告（司会 田中例会委員長）

日時 平成15年11月13日（木）午前7時30分～午後7時

場所 野外研修、移動例会として西東京バスの車中にて実施

出席者 会員42名（出席率67％）

開会に先立ち、去る10月26日にご逝去された、前研修委員長、故・須藤英雄様のご冥福を祈り1分間の黙祷を捧げた。

1 会長挨拶

過日、須藤さんが亡くなりました。私たちは悔しい思いで一杯です。須藤さんはこれからのこのクラブを背負っていただく人であっただけに、ご本人が一番悔しい思いでいただろうと思います。「朝には紅顔ありて、夕べには白骨となる」という言葉を、どこかのお葬式で聞いたことがあります。今まさにその思いが致します。人間の平均寿命から見れば、十数年早いように思いますが、人生の終焉を考えますと、逆に長い入院だとか、苦しまれることが少なかったのが救いではなかったか、との思いが致します。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今日は、研修旅行で横浜へ行く事になります。私としては、横浜港は初めての訪問になりますが、つい私の郷里である神戸と比較してしまいます。横浜港の方が神戸港より、60年も早く開港されたと伺っています。神戸は阪神大震災後の復興ぶり、地下鉄網の充実と5年前に比べて大きく変化しました。本日は、横浜の地理、歴史に詳しい野口先生、宮崎地域奉仕委員長の案内で勉強できることを楽しみにしております。

今年も後1回だけの例会を残す事になりました。元気に過ごしたいと思います。

2 理事補充の件

研修委員長の補充につき、副委員長の矢崎安弘会員の選任を満場一致で承認した。

3 新入会員の紹介

八木 啓充（やぎ ひろみつ）
会員番号 83

推薦者：宮崎浩平会員

生年月日：昭和11年8月21日
住所：〒193-0933八王子市山田町1606-25
電話/FAX：0426-66-2744
前職：日本コンベンションサービス（株）
趣味：男声合唱、山歩き

4 幹事報告（下山幹事）

（1）はちおうじ健康づくり推進協議会が発足した。当プロバスクラブも正式に加盟したので、行事の際は会員のご協力をお願いする。

（2）須藤さんのご遺族より、ご厚志を頂戴した。

5 委員会報告

○ 例会委員会（田中委員長）

1月の例会は、例年どおり新年会を兼ねて1月8日（木）午後5時より実施する。

場所：京王プラザホテル八王子4階 扇の間

新年懇親会の内容については検討中であるが、新しい年の出発に相応しい内容にしたい。

12月の例会時に最終人員の確認と会費を徴収する。

○ 情報委員会（武田委員長）

プロバスだよりは今回追悼文を掲載したので、当初予定稿の記事は次回に先送る。

○ 会員委員会（中野委員長）

会員の増強について、協力をお願いする。

○ 研修委員会 本日の研修旅行の主催であり、訪問先・車中の世話等に注力していただく。

○ 地域奉仕委員会（宮崎委員長）

（1）11月22、23日はいちょう祭りで、今年は八王子の歴史と文化に関するテーマで市内の小、中学生に絵を描いてもらい200点余を審査・選抜（12日、鶴田、中野両会員参加）したものを

中央図書館地下ホールに展示する。これらの展示物の保安全管理業務を各委員会に分担して願います。

また、恒例の手形の販売をするので、ご協力をお願いします。

(2) 生涯学習サロンの開講式、閉講式の講師、テーマ及びサロンにおける講師の陣容も決まった。20日までに印刷物にしたいので、題名・日程の変更要望があれば連絡してほしい。

6 プロバスソング斉唱は移動例会につき、取りやめ。

7 閉会（大高副会長）

次回例会 1月8日（木）午後5時00分、場所：京王プラザホテル八王子4階 扇の間

野外研修レポート

朝7時、JR八王子南口集合。参加者42名。故須藤前研修委員長が最も気にしていた早朝からの出発時間であったが、遺志が通じ予定通りのスケジュールで出発できた。午後から雨という天気予報だったが、陽がさしたり曇ったりの天気、この一日を過ごすことが出来た。バスは国道16号を南下し、一路金沢文庫へ。車中で故須藤会員のご冥福を祈り黙祷、その後例会議事に移った（例会の議事録は前出）。矢崎新研修委員長が今回の野外研修の目的を紹介し、配布された研修委員会編集のテキスト（これが内容の充実した資料であった）をもとに、野口会員から横浜の歴史と八王子の関係について、丁寧なガイド説明があった。往路も順調に進み、10時過ぎに現地到着。金沢地区の道路が狭く、一寸離れた住宅地で下車。称名寺に入山した。

○称名寺・金沢文庫見学（10:10～11:30）

称名寺境内にある朱色の太鼓橋前で全員の記念撮影。各自参拝、散策の後、金沢文庫に入る。学芸員による真言律宗・金沢山称名寺の由来、本尊弥勒菩薩の説明を受けた後、文庫の教室で、金沢文庫の成り立ちのビデオを見、特別展「雲にのるかみほとけ神仏」を鑑賞。「聖地から雲にのってやってくる」という表現は、人々の神仏を身近に感じたいという願いが現れていると言うことらしい。約50点の重要文化財、他の資料の展示があった。

○昼食 中華街にある「同發別館」で中華料理を楽しむ。（12:00～13:10）

○横浜開港記念館（旧イギリス領事館）（13:30～14:30）

企画展は「日刊新聞、誕生スー『横浜毎日新聞』と文明開化の横浜ー」

ここでは館員により1854年ペリー上陸時の開港に関する説明があった。ペリーは日本人の前では顔を出さなかったもので、似顔絵は数種類あり、どれが本物に近いのかは分からないとのこと。

モールス電信機や蒸気機関車の模型などが展示されており、当時の日本では想像できない品物が贈られていたことが分かる。

○神奈川県立歴史博物館（旧正金銀行本店）（15:00～16:30）

この博物館は関東大震災で焼失を免れた石造りの3階建て建造物である。

特別展として神奈川県文化財保護条例制定50周年記念「重要文化財ーかながわ考古展」の開催中。

ボランティアの説明員が大勢おり、二手に分かれて説明を受けた。

この特別展では、神奈川県域にある遺跡を紹介、旧石器時代、縄文時代から、近代・現代までの人々の生活を、時代毎に五つのテーマパークに分け、時代時代の埴輪、土器から始まり、陶磁器、美術工芸品、古文書、模型等の出土品、製作作品が展示されていた。説明員が丁寧にガイドしてくれ、出発の時間が延びたくらいだ。

今回の研修は展示会の鑑賞が多かったため、時間的に厳しいスケジュールであったが、色々な発見があり充実した一日であった。八王子と横浜は案外近いので、再度、ゆっくりと訪れて街並みを見ながらそぞろ歩きも悪く



はないなと感じた。帰路の車中で、飲み物も配られ、歓談が進んだ。恒例のいちょう祭り通行手形も販売され、ほぼ完売のようであった。この野外研修の企画をしていただき、実踏の上、完璧な計画を立てていただいた故須藤会員、矢崎委員長、そして研修委員会の皆さんにお礼を申し上げます。

同好会短信

プロバス囲碁会一泊旅行

吉田 信夫

10月23日～24日の2日間にわたり、JR藤野駅から程近い陣馬山の麓の陣谷温泉で、囲碁大会を行ったこの宿には、宿の主人の道楽による立派な囲碁対局室があり、素晴らしい環境の下、熱戦を繰り広げた。宿に着き、昼食後から夕方まで囲碁、風呂・宴会の後、

再び深夜まで囲碁、翌日は朝食後、昼過ぎまで囲碁と、まったく囲碁三昧の2日間であった。

参加者14人がA、Bの2グループに分かれ、勝敗を競った結果、Aグループでは矢崎安弘さんが、Bグループでは浅輪豊治さんが優勝された。

A、B両グループとも実力伯仲し、特にAグループは最後の最後まで、優勝の行方は分からなかった。この様に囲碁にどっぷりと漬かった経験は、皆さん初めてのようで、「またやろう」との声が強く出ていました。

最後に、この楽しい企画を纏めてくださった矢崎安弘さんにお礼申し上げます。



写真は矢島氏提供

同好会短信

第7回「プロバスクラブ」ゴルフコンペ

西志村光治

日増しに晩秋が深まる八王子近郊の“はちかん”こと八王子カントリークラブで、11月20日開催された。当日はあいにくの小雨煙るチョイ寒の、ゴルフにはまいちの日和ではあったが、濡れたもみじや楓は深紅に鮮やかに染まり紅葉の進んだグリーンであった。

今回は八王子南RCから加賀谷会長様ほか4人のゲストと会員15名による競演であった。

トリッキーなインコース、長距離のアウトコース、共通して難しい砲台グリーン（逆戻りしてラフへ）、小雨にけふる殆ど見えないグリーンの旗、等々の難条件の中で行われた。

優勝 橋本義和氏、準優勝 矢島一雄氏、三位・ニヤピン 森田貢士氏（南RC）

新ペリア方式のため、優勝こそ逃したがグロス85（39,46）というスーパー会員に驚嘆と共に挑戦意欲をかき立てられた一日であった。

次回コンペ開催予定 来年4月15日（木）、場所未定。 幹事：橋本氏、鶴田氏



◎投稿

高野山と観心寺参詣紀行 其の1

石井 實

石井家の菩提寺は上恩方狐塚に在る臨済宗南禅寺派の萬蔵山興慶禅寺。詩人中村雨紅の「山のお寺」の情景にピッタリの環境で、境内には「夕焼けの鐘」や「ふる里と母と」の碑が造られている。雨紅の生家はバス停2つ先の「宮ノ下」にある。

興慶寺の檀家有志は寺に所縁のある地を尋ねる研修旅行を毎年のように行っている。私も退職後毎回参加しているが、今年は住職同士が南禅寺で一緒に修行した縁で高野山参詣となった。宿坊は高野山準別格本山蓮華定院。関ヶ原の役後、真田昌幸・幸村父子が信州上田城を長男信幸に託し、仮寓としたところで、別名真田坊といわれている。

高野山までは片道500kmを越え、高速道路あればこそその道程。秋の日は短く、山中であることも加わって到着は暗くなっていた。車中で焼酎を飲み過ぎた誇りは免れぬが、精進料理の夕食最中、突然頭の中が空白状態となり息苦しさを覚える。調度類のない白熱球のほの暗い灯の下、時間の経過がもどかしく悶々とする。和尚が一緒の旅だからと気を静め、夜半過ぎにウトウトしたが目覚めるとかなり寝汗をかいていた。翌朝6時の勤行で先祖供養を祈るが、標高1,000m近い開け放たれた本堂での1時間は寒気が身にしみる。高野山大学の学生なのか10人近い外国人の姿も見受けられた。

816年僧空海が嵯峨天皇からこの地を賜り、真言の根本道場を開設したのが高野山の始まりで、高野山真言宗総本山は金剛峰寺。明治以後一山の本坊たる伽藍（青巖寺）が金剛峰寺と定められた。本山を中心に多くの堂塔伽藍が建ち並ぶ。

高野山は秀吉による戦火は免れているが、度重なる雷火による焼失があり多くの寺院の建物は明治後のものと。諸堂には多数の美術品が所蔵されていて、密教美術の宝庫とも言われている。

中国に学んだ空海は、真言密教第八祖として遍照金剛の名を与えられており、今日でも真言宗の葬儀では参会者が南無大師遍照金剛と唱和し鎮魂

する。空海は原理・実践・心理面から即身成仏の思想をその著「即身成仏義」の中で説いている。835年山中の岩窟で「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば我が願いも尽きなん」と未来永劫の衆生救済を誓い入定（永遠の座禅）したが、この地に建立されているのが奥の院で空海の御廟がある。空海入定信仰の隆盛に伴って高野山は繁栄してゆく。奥の院一带は撮影禁止地域、境内の清流にはアマゴが泳いでいた。

室町後期の社会の混乱の中で高野山の荘園は失われていくが、豊臣家や徳川家の帰依もあって諸国の大名達が盛んに檀縁を結び墓石を建立する。

日本総菩提所ともいわれる五輪塔の墓石群で、一の橋から奥の院に至る2kmの山中に林立している。下部から方形・円形・三角形・半月形・団形を積み重ねた塔が五輪塔。この五形は密教の標識で宇宙の生成要素である五大（地・水・火・風・空をいう）を形どると共に大日如来のシンボルとして尊崇される。現在の卒塔婆の輪郭も五輪塔を形どったもの。講釈はさておいて、樹齢を重ねた仄暗い杉林の中、所狭しと並ぶ五輪塔群は異様な雰囲気を感じさせる。講釈はさておいて、樹齢を重ねた仄暗い杉林の中、所狭しと並ぶ五輪塔群は異様な雰囲気を感じさせる。

奥の院参詣を終えた帰路、杉を伐採して造営した新設墓地に白蟻供養塔があった。宗派を問わぬ高野山だが苔むした五輪塔は何を思い何を語ろうとしているのだろうか。

高野山下山の車中で高校時代からの友であった故須藤英雄氏逝去のメールを受ける。昨夜の不調は虫の知らせだったのか、無常の想い入。ご冥福をお祈りする。



11月22・23日 いちようまつり
小学生による八王子の歴史絵画展での一こま

2004年も輝いて過ごせるように

立川富美代



プロバスクラブの皆様、明けましておめでとうございます。2004年の新春を健やかにお迎えされましたことをご喜び申し上げます。

例年、新年例会・新年懇親会が終わりますとすぐに「学習サロン」が始まります。クラブ全員の力を結集して、「自然と緑」のテーマを軸に充実したサロンの展開を期待いたしております。

昨年のサロンテーマの中に、「シルバーエイジを輝いて過ごすために」と言うのがありました。クラブのメンバーが等しく考えることでしょうか。輝いて過ごす為には会員それぞれが考えることですが、やはり第一番に健康ではないでしょうか。私たちの年代は健康な日々を送れることが幸せであり一番望んでいる事です。そして輝いて過ごせると思います。今年は大阪のプロバス全国大会参加、八王子市健康づくり協議会への参加等、また地域社会への奉仕と幅広く活動できますよう健康に留意をして、会員一人一人が輝いて欲しいと願っております。

◎第98回例会報告（司会 田中例会委員長）

日時 平成15年12月11日（木）午後0時30分～2時30分

場所 八王子エルシー

出席者 会員50名（出席率80%）

来賓 八王子南ロータリークラブ 加賀谷恵会長、広瀬武彦幹事、川崎西ロータリークラブ 斉藤尚雄会長、斉藤二郎プロバス創立準備委員長、三間悌司次期会長予定、片岡登美夫次期筆頭理事予定、武笠博行次期幹事予定

1. 会長挨拶

八王子南ロータリークラブ会長と幹事が毎月ご出席して頂き、厚くお礼を申し上げます。また本日は川崎西ロータリークラブの会長を始め、4名の皆様がお見えになりました。新たに川崎でもプロバスクラブ設立の機運が高まり、その準備の一環として当クラブを視察されるとのことで、大変光栄に思っております。

先月の野外研修例会は、研修委員長の突然の死去というアクシデントにもかかわらず、よい研修をしていただきました。また地域奉仕委員会中心に「いちようまつり」の奉仕を頂き有難うございました。

最近、教育の現場が荒れております。それも一昔と違い、子供ではなく指導者に問題が多いと聞いています。ガーディアン・エンジェルズという、夜の盛り場で、青少年の行動のパトロールをしているグループの隊長の話を見ました。1979年にニューヨークにできて、日本では阪神大震災を期に発足したもので、赤いベレー帽とジャンパーで新宿、池袋、渋谷などで夜の盛り場のこどもたちのパトロールをしています。最近には特に麻薬や性犯罪が多く、年齢がとて低年齢化しております。長く社会教育の現場で少女たちを指導しておりますと、いくら教育現場が荒れていまして、こどもたちを健全に育成するには家庭教育が原点であると思います。10月にドイツからオーケストラを招聘、その団長の子供たちへの躾はしっかりしたもので、ヨーロッパの家庭教育の程度の高さを感じました。私たちの年齢では、自分の子女でなく孫の時代ですが、心身ともに健康に育てるために、しっかりと見守って行きたいと思っております。

2. 来賓挨拶

○加賀谷八王子南ロータリークラブ会長挨拶

先月は野外例会だったので、出席できず、今日は2月ぶりですが、皆様お元気で、しかも本日は川崎西からお客様をお迎えし、うれしく思います。

（プロバスクラブについて縷々、ご説明があった）

○斉藤川崎西ロータリークラブ会長挨拶

川崎西ロータリークラブは、会員84名を擁し、70乃至80%が例会に出席しています。当ロータリークラブの創立40周年記念行事として、プロバスクラブ設立の機運が盛り上がっています。この面での先輩である貴クラブの実情をお伺いしたいので、本日多数の者が参りました。どうぞよろしくお願いします。

3. 新入会バッジ授与

会長より前回入会の八木啓充会員にバッジ授与。

4. 幹事報告（下山幹事）

- ①プロバスクラブ規約の最新版を配布した。改訂の部分の徹底と会員委員会による会員増強の際、オリエンテーションに使って行きたいとの趣旨である。なお第8条の例会時間が実際より30分短く書かれているが、現実通りにやるので規約は機会を見て訂正されるべきものと考えてください。
- ②本日の配席について委員会別にしたが、後に情報委員長の説明があるとおり全員にご協力をお願いしたいことがあったためである。
- ③1月18日（日）に八王子健康づくり協議会のシンポジウムが計画された。参加乃至手伝いの要請があるのでお心に留め置き願いたい。
- ④今後、例会席上での全員配布の印刷物は、事前に理事会、関連委員長に届け出るようお願いしたい。但し、会場受付付近の机上に置いて、持ち去り自由の印刷物については制限しない。

5. 委員会報告

○例会委員会（田中委員長）

本日の例会には、会員62名中50名が出席、出席率は80%。

○情報委員会（武田委員長）

第8回生涯学習サロンに対して、八王子市及び市教委の後援の許諾を得た。また市の広報紙への掲載（1月15日号）も申請した。従前のサロンのテーマ記録の電子ファイル化は、橋本副委員長の尽力により実現。

校正は当委員会の委員全員が分担して当たるが、会員に協力をお願いすることもある。

会員動向：野口会員 八王子南RCで「八王子千人同心」をテーマに卓話を行った。

○会員委員会（中野委員長）

会員の異動について：須藤さんが逝去、小坂さんが退会、関戸会員、小山会員が休会となった。

○研修委員会（矢崎委員長）

空席となっている研修委員会副委員長に加藤会員が選任された。

同好会の補助金申請書の提出を願いたい。

○地域奉仕委員会（宮崎委員長）

- ①いちょう祭りにおいて、図書館における児童らの絵画の展示に協力したことに関して、いちょう祭実行委員会より感謝の辞を受けた。関所手形は40枚を販売。

- ②生涯学習サロン案内の配布、共通テーマは「自然と緑」。（サロンテーマ詳細内容の説明があった）

- ③サロン受講選択テーマの提出並びにサロン当日の役割分担について次回例会まで決定する。

6. 卓話 北川 博孝会員

テーマ「八王子空襲と浅川地下工場」、副題「アメリカは八王子をどのように認識し、どのように空襲しようとしたか」

米軍が、攻撃目標として八王子をどのように位置づけていたかは、米軍側から得られた資料によると、まず第一に、八王子が鉄道の要衝（railroad junction）であることです。資料「Tabulation of targets in Tokyo area」を見ると、いかに米軍が八王子駅の構造配置につき綿密な事前調査を行ったかがわかります。（配布された八王子駅の構造配置図によると、八王子駅構内の信号所、転車台（ターンテーブル）、それに線路の側線が21本あることまで描かれている。）第二に、八王子が人口の集積地であることです。配布資料により分かるとおり、八日町交差点を標準点として、半径約2キロメートルの範囲が、八王子の中心部ですが、これが焼夷弾攻撃により焦土と化しました（配布の地図によると、八日町交差点の標準点に向かって、3本の攻撃軸が、南西方向から、共同墓地、旧裁判所、八

王子中学校をそれぞれ経て八日町交差点に収斂するように描かれている)。

他方、米軍のわが国軍事施設、軍需施設に関する調査は、完璧とはいえませんでした。米軍は浅川地下工場の建設がなされていることを終戦まで探知できませんでした。配布の「浅川地下工場(Asakawa Underground Plant)の全体配置図」のとおり、地下工場網が張り巡らされていますが、これは終戦後「米国戦略爆撃調査団」の調査により米国がはじめて知ったことです。この図面によると、地下工場は、A,B,C(日本語図面でイ、ロ、ハ)の3地区に分れており、広範なものです。

【補足説明(卓話の時間内で話せなかった内容をまとめました)】

①地下壕の総面積～ABC地区の合計は31,566平方メートル、約9500坪余り。(参考:東京ドームの面積は15,151坪、約6割の広さに相当) 約6ヶ月の突貫工事で完成した地下壕の進捗度合いは平均で約75～80%、終戦までに完成した航空機用発動機はわずか10台に過ぎなかったとのこと。

②米軍から見た8月2日の空襲～ティニアン島から169機が飛来。同日に富山、長岡、水戸も空襲。1機に8トンの焼夷弾を搭載、種類は2種類でイ、エレクトロン爆弾、ロ、油脂焼夷弾2種類の合計は約1590トン。

③市の南南西、西南西方面から侵入、八日町の照準点(平均着弾点)に向け焼夷弾を投下の件。

*慣性の法則を利用、高度、速度を綿密に計算し、手前でボールを投げるように、手前で落下させる。真上だと命中率が落ちる。自機も真上だと危ない(巻き込まれる)～原爆の場合も同じ。

④当時の八王子市への主な疎開者～水原秋桜子、(俳人)、吉田秀和(音楽評論家)、大内兵衛(東大教授)、市川房江(婦人運動家)等。

⑤地下壕のA地区の奥の半分は大信工業というプラスチック関係の会社を買収、しいたけの栽培やワインの貯蔵場所として使用していたが、鉄柵が設けられ半分より先には入れない。現在、文化庁が戦跡(戦争遺跡)50箇所の指定を計画し、大信工業と折衝中とのこと。

⑥現在の開放状況～原則として月に1回見学の機会あり～団体20名以上、個人は各人が保存会へ個別に連絡、人数が揃い次第、説明者が誘導、説明。*数ヶ月先まで予約で一杯とのこと。

7. プロバスソング斉唱

8. 閉会(大高副会長)

おせち料理とファーストフード、食材の自給率について考える。今年も無事にプロバスクラブが終了できたことに感謝する。

次回は、新年例会 平成16年1月8日(木)午後5時(京王プラザホテル八王子4階扇の間)

*同好会案内

- ・ゴルフの会 4月15日(木)「相武カントリー」にて開催、幹事(橋本・鶴田)参加受付中
- ・囲碁の会 毎月第1・3金曜日開催 1月第1金曜日(2日)は休会
- ・お茶の会 12月は12日(金)納め会開催



◎投稿

高野山と観心寺参詣紀行 其の2

石井 實

高野山は和歌山県だが、檜尾山観心寺は大阪府河内長野市に在る河内地方最大の古刹。創建は奈良時代前期の役小角による雲心寺といわれている。寺伝によれば空海が当地二度目の巡錫の折、国家安泰衆生除厄祈願のため、如意輪観世音菩薩（秘仏・国宝）を刻み、本尊とし観心寺に改称とある。寺に所蔵される縁起資材帳（国宝）によれば、空海の弟子実恵とその弟子真紹により本格的造営が行われ、定額寺として隆盛していたようだ。何回かの改修があったが7間四方単層入母屋造りの本堂（金堂）は国宝で、和様・禅宗様・大仏様の折衷様式の代表的遺構とされている。

南北朝時代短期間だが南朝第2代後村上天皇行在所となり裏手の山中に陵墓もある。

観心寺は楠木正成所縁の寺として知られている。正成は8～15歳の間楠木家菩提寺である当寺の中院で修行した。四書五経等は比叡山の僧滝覚坊に学び、大江広元の曾孫時親に兵法を伝授されている。南河内の一豪族であった正成が、歴史上に登場するのは1331年後醍醐天皇による鎌倉幕府執権北条氏討伐の元弘の乱で、笠置山に逃れた天皇は夢で正成を知ると太平記は伝えている。敗れた天皇は隠岐へ配流となるが、翌元弘2年天皇の皇子護良親王が吉野で挙兵、正成も呼応し少数の手兵で数万の幕府軍を相手に知謀奇略を巡らせ翻弄した千早城攻防は、兵法家としての正成を確固たるものにした。朝廷側に帰順した足利高氏（後に尊氏）や新田義貞の参戦があり、1333年鎌倉幕府は滅亡し所謂建武中興が実現するのだが、この新政も公武対立・確執に加え失政から人心特に武士階級に不満が募り2年半で崩壊する。

反朝廷の旗色を鮮明にして鎌倉に下った尊氏は大軍を擁し京に向かうが、義貞・正成連合軍に比叡山で敗れ、九州へ敗走する。この折、正成は「義貞を誅伐せられて尊氏卿を召し入れられて君臣和睦候へかし」と上奏、公家により却下されるが、正成は時代の趨勢を見抜く力量を備えていたようだ。

1336年再軍備した尊氏は東上を開始し、兵庫湊川で義貞軍と対峙孤立化させる。天皇から義貞救援の諮問を受けた正成は、今尊氏軍と正面衝突しても勝算無く他日を期すべしと献策するのだが採用されず死を決意して湊川に赴き、天皇を守護することが任務と義貞を説きその退路を確保して自身は激戦の末自刃して果てる。「青葉茂れる櫻井の・・・」小学唱歌にあった正成・正行別離の情景は太平記で物語られている。

真偽は別として我々の年代では心を打つ。勝利した尊氏は朝敵の悪名を避けるべく持明院・大覚寺兩皇統の対立を利用し新帝を擁立、後醍醐天皇は吉野に遷都―南北朝時代が幕を開ける。

日本史の復習をしたことになったが、尊氏は正成の首級を菩提寺である観心寺に送り届けている。開山堂の横に首塚が祀られ五輪塔が建立されている。ふと阪神淡路震災後の神戸湊川神社はどうなっている

かと頭をよぎった。

境内には建掛塔（重文）がある。菩提寺への報恩のため、正成は3間四方茅葺三重塔建立を志したが、討死により1階部分のみの未完成に終わってしまった。

茅葺き屋根は風化が進み境内から飛散したのか2～3年ものの実生の杉が根を張っていたのが印象的で無情さのみが残る。

研修旅行を記録したアルバムも9冊となった。今回は平成16年4月開基龜山法皇700年御忌に南禅寺参詣が決まっているので、体調を整え周囲に迷惑をかけぬようにせねばと思っている。（おわり）

◎投稿

人勢は暦年齢で判定できない

長町幸雄

人生に卒業はない。人はたとえ病魔に遭遇しても、死の間際まで生命維持戦略の選択と実行に対する自動努力を怠ってはなるまい。

外科医の私にとって、記憶に残る高齢者手術症例は少なくない。

昭和62年、男性、86歳、上腹部不快感を訴えて近医を受診した。上部消化管内視鏡検査で、噴門直下のⅡC病変(管状腺癌)を指摘され、当院に入院された。腎機能障害(BUN30mg/dl、CRE2.0mg/dl)があり、高齢のため、体に負担の少ない内視鏡治療を選択し、YAGレーザー照射治療(10日間隔で計4回)を行った。3回目の治療後に癌遺残を認め、4回まで治療を継続した。

4回目の治療の6時間後、上腹部痛、筋性防御(腹壁筋の緊張)を認めた。腹部単純X線撮影の所見で横隔膜下に遊離ガス像を確認し、胃穿孔性腹膜炎と診断した。

白血球の増加はなく、全身状態も良好のため、局所麻酔で腹腔内ドレナージを施行して治療したが、入院中に急性胆のう炎を併発し、PTBD(経皮経肝胆道ドレナージ)で軽快した。1ヵ月後退院され、日常生活に復帰された。退院後3ヵ月のフォローアップで、胃内視鏡検査を行ったところ、再び噴門直下にⅡC様病変を指摘され、再入院された。このとき私は、本人の日常生活の状況と意欲の充実、身体予備能力が十分であることなどの総合判断で、私から手術を勧め、噴門側胃切除術を行った。出血も少量で、無輸血3時間の手術を終え、1ヵ月後に退院された。90歳まで(術後4年)ご健在でした。

この症例では、初回入院時のインフォームド・コンセントに対して、家族の「超高齢の父には手術リスクが大きすぎる」との判断が、本人の意欲にブレーキをかけていたようです。後日、「なぜ初めから手術してくれなかったのか?」と尋ねられ、平身低頭して「うーん」と答えただけで、互いに笑いあった思い出がある。

この症例が教訓となり、その後は、高齢者でも「人勢のある人」には、余生に十分な可能性を残してあげたいと心掛けてきた。

アルファ・クラブ(胃を切った人(胃と腸・医師と患者の情報誌) 11月号 第257号より)

2003～2004 年度のテーマ「－喜びを分かち合おう・支えあえる仲間になろう－」

◎第99回定例会報告(司会田中例会委員長)

日 時：平成16年1月8日(木)午後5時～6時

場 所：八王子京王プラザホテル

出席者：会員56名(出席率90%)

来賓等：八王子市黒須市長

八王子南ロータリークラブ 加賀谷恵会長、廣瀬武彦幹事

1 会長挨拶

新年の挨拶

今年一年元気で仲のよいプロバス活動を実施して行きたいです。 本日は、特別来賓として、黒須八王子市長のご臨席をいただくと共に、来賓として八王子南ロータリークラブの加賀谷会長、広瀬幹事にご出席をいただいております。 後ほどご挨拶をいただくようお願いしてございます。 また昨年末には南ロータリークラブの素敵なクリスマス・パーティーにもお招きいただきました。

昨年、暮から正月にかけて神戸において、天候に恵まれた中での朝日の上昇の素晴らしさに接し、迎える新年の平穏を強く願いました。 しかし日本国内の状況を見れば、自衛隊員のイラク派遣も近づいてきましたし、それに伴うテロについての心配も生じてきました。 更に中国のサーズの問題、アメリカのBSEの問題など国内外の事件等も起きており、平和である事の重要性を強く認識することになりました。 更に、昨年の冷夏に伴う米の不作、本年にかけての暖冬の経済的影響も気になるところです。 本年そのような事のないよう願うものです。

地域の活動については、医師会などとの共催しての八王子市健康づくり協議会の活動も実働に入ります。

健康づくりにあたっては、皆様のご協力をいただき成功をおさめたいと思います。

本会としては来月から学習サロンが始まります。 第8回のサロンについて皆様には現在いろいろご準備いただいておりますが、これもまた大成功するよう会員一致して努めたいと思います。 本年一年、プロバスクラブ員として一人一人が健康で輝いて活動するよう強く希望したいと思います。 また1月25日には八王子市長選挙がございますが、八王子市が住みよい元気な街となる契機になるよう認識して参りたいと存じます。

2 黒須八王子市長挨拶(要旨)

新年挨拶



平素の市政についての理解と支援に感謝いたします。 又、プロバスクラブの定例会(新年会)にお招きいただき嬉しく思っております。 私のもので市長として4年を経過し今月28日が任期満了です。 皆様の協力の下に4年の任期の職務に取り組んで来ました。 4年間の市政に於いては八王子の街をもっと元気で活気のある街にしなければと思い、第1に職員の意識改革が必要であり、その方向での努力をしました。 特に職員の市政についてのコスト、スピード、更に危機感を持つての意識改革が欠くことの出来ないものであると共に市政に於ける行財政改革の必要性を認識し、現今の厳しい経済状況下に於いての取り組みをしました。 何事も一挙に実現は難しいけれど職員の意識も徐々に変化し、日々努力をするようになって

きました。 私の任期中、職員定数を370名減じ(人件費では30億円以上)、更に3200億円あつた借金も今年の決算で約一割を減らし2900億円にしました。

今後はこれらの施策と共にOnly oneの市づくりを目指すことを重点としています。 一例を挙げれば全国で初めての不登校児・生徒の解消の為に小・中一貫校を国の経済改革特区に応募し、小泉首相の賛同も得て本年4月にオープンするつもりであります。 4年間私は市政において植物を育てる土づくりを行ってきました。その結果幾分の明るさも認められ、今後はその土壌に苗を植え、花を咲かせるよう努力したいと思っています。

今後のご理解とご支援をお願いする次第でございます。

3 来賓紹介・挨拶

八王子南ロータリークラブ会長 加賀谷恵様、幹事 廣瀬武彦様

◎挨拶

・加賀谷会長

新年の挨拶

昨日の七草の食事の負担についての話があったが皆様と共に私も健康に留意していきたい。お陰様でラブ会等への出席をさせていただき本分をまっとういたしたいと思います。

4 幹事報告(下山幹事)

年頭に当たっての幹事報告として3点を挙げる。

①八王子市健康づくり推進協議会と八王子市医師会の共催による「痴呆はどこまで予防できるか」については1月18日(日)13:00～16:00に八王子市民会館で実施される。プロバスクラブも共催団体なので会員の方々の参加を是非お願いしたい。お手伝い等はなく参加のみである。参加の方はレジュメ(印刷物)の中のハガキを個人でお出し下さい。

②同協議会で5月16日(日)の市民健康の日に様々なイベントを催すが、その企画等の準備の為のワーキング・グループにプロバスクラブから下山、鶴田、宮崎会員等が参加する。

③5月23日大阪で全日本プロバスクラブの開催が決定した。

全日本から100余名が参加するとの事で当会としても無視できないので1名の出席を登録しておいた。

5 委員会報告

◎例会委員会(田中委員長)

- ・本日の出席率90%
- ・11月の定例会については、野外例会と一緒にだったため、不参加者には内容プリントを渡せなかった。申し出てほしい。
- ・次回は2月12日(木)エルシィを会場として定例通り実施する。
- ・本日は例会後、第2部の新年宴会を当ホテルで実施する。

◎情報委員会(武田委員長)

- ・過去の学習サロンのまとめをしているが校正を含めてほぼ終了した。修正が必要な箇所もあると思われるので、お渡ししたプリントを参照し修正の申し出をお願いしたい。
- ・過去の記録については書式、バランス等の相違も目立つのでポイントを定めて記録するよう今後進めたい。

◎会員委員会(中野委員長)

- ・名簿の作成は半年に一度行っているが、ミスプリントも考慮し、2月にお渡ししたい。
- ・名簿の訂正箇所
野口さんの住所：日野市→(正)八王子市
向山さんのマンションの名前が誤っている
新入会員の野末さん、八木さん、退会会員の小阪さん、須藤さんについて、追加・削除がなかった。
- ・親睦旅行について
本年は柏崎市の刈羽原子力発電所の予定。6月16日～17日観光バス利用。
参加希望は2月に調査する。

◎研修委員会(矢崎委員長)

特になし

◎地域奉仕委員会(宮崎委員長)

- ①来月の生涯学習サロンに向けて、本日リピーターに通知を出した。
- ②生涯学習サロン担当者一覧表について印刷に誤りがあった。
 - ・司会：下山→下田と訂正
 - ・井戸端会議の記録：藤野→浜野と訂正
- ③本日お渡ししたサロンの概要紹介について変更がある。
 - ・話し手、近藤さんの都合により3週目の近藤さん→4週目に入り4週目の宮崎さんが→3週目に入る。
- ④サロンについて
 - ・話し手：サロン当日の器具・備品等の調査用紙を早めに提出してほしい。
 - ・会員：前回にお渡ししたサロン当日の出席希望の調査用紙を提出してほしい。

6 その他

・お茶の会

1月の例会は13日、午前10時から阿部さん宅(1月は初釜の為会員外の参加も歓迎)

・囲碁の会
1月16日(金)台町市民センター

7 プロバスクラブ・ソング斉唱

8 閉会(大高副会長)

本年も皆さんと共に、健康に留意しながら元気に活動をしていきたい。 市政の安全で安心できる街づくりの運動にも会として協力していきたい。

○2004年 新年懇親会 午後6時～8時30分(例会に引き続き、京王プラザホテル)

司会進行 山崎修司例会委員

- 1 開会 立川会長の挨拶でにぎやかに開会となる。
- 2 乾杯 大野聖二会員の発声により祝杯
- 3 懇親 ビンゴゲーム、カラオケで楽しむ。 終わりにには全員で肩を組んでの大合唱となり、若き時代の思い出がよみがえった一時であった。
- 4 閉会 石井實前会長



ホームページ公開

1月30日、東京八王子プロバスクラブのWebページを公開しました。

URL <http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

プロバイダーはBIGLOBEで、花わらべ広告社のホームページURLを利用させていただいております。

【ことば】

URL: (Uniform Resource Locator)

wwwやメールの宛先、ファイル転送などの情報がある一意なアドレス。

WWW: (World Wide Web) 略称Web

ハイパーテキストという概念を採用した情報検索・表示システムの名称。欧州核物理学研究所で開発されたドキュメントシステムで、開発プロジェクト名が“World Wide Web”であった。

◎投稿

八王子の商い

野末孝雄

八王子の商いは足利時代から月の六と八の日に開設された六斎市場からはじまった。そして、元八王子城が天正十八年に落城した。その後、城下三宿が移転して甲州街道に沿う宿場として形成されたのは常設の市場が置かれてからの事であった。この頃、千人同心が警護に派遣され同心の人氣が上り市場が活気づいている。商売気があって、屯田兵であり己を弁えて、この氣性が良い方向に進んだと見る人もいて、特に甲斐の産物の流れは同心の力が大きいと人は言う。色々と各地の産物も集荷される様になって、日を追う事に賑わいが加わり、自信の品物の取引も多くなり、市場対市場の紛争も起った。横山、八日市、対八幡、八木市の利権をめぐる六年余の審議を経ても結論が得られずに、又一方では近辺の商人層の台頭が目立ってきて、各地での小市場が乱立し、暫し八王子の市場の取引が脅かされる様になった。昔も今

も新興商人の輩出によって既存の市場の衰微は明白である。明治になって織物は好調に移行していたが、それと共に混乱も生じ、明治八年に八王子織物商組合を設立して市場の整理を行った。市場を横山、八日市二ヶ所で四と八の日に交互に開く事に定めた。これにより織物の販売も上手く流通の波に乗って行くようになった。

第一次大戦の影響により物価が急騰した事で、東京府は社会救済事業として公設市場を五ヶ所設置した。

御関係として青果市場を旭町、本町に鮮魚市場を設立した。一般日用品市場として横山町、八木町、追分町に開業し市民の利便に供された。

お解りの様に、八王子の商店街は過去の歴史の様に街道は一本道で、落城以後その儘に横山を起点として前と横に進展したと見える。当時の様子は昭和十四年の調査の分布図で伺える。それによると、中央線の南の一带は少数の家と広い畑で占められていた。また小売店は1,567戸で横山町が224戸、全体の10パーセントにあたる。

戦争が続き経済も統制体制の影響を受けて、各商店も単なる窓口的な機能だけを維持する事になり、転業廃業が多くなり、八月二日の終戦を迎えた。翌年三月三日に物価統制令が公布された。

商店街の復興も順調とは言えなかったが、そのような中で多くの市民に受けたのが露天商で、日毎に増えて需用に応じられるようになり、駅前広場、八幡さまの境内、などで衣類、食品等様々な物を扱った。昭和二十五年には露天商組合の規模は三倍になったようだ。この年に物資統制令が解除された。商いの自由化に商人は急速に動きだした。昭和二十八年には食料品販売が一位、次いで衣料品で、年を追う毎に店は増加して行った。

戦後の復興も進んで、アーケードも架設されて賑わいも多くなった。その頃に、「まるき(現在のエルシー)」、「いのうえ(現在の八日町シダックス)」の二つの百貨店が誕生した。ついで「伊勢丹」、「大丸」、「田丸屋」、「岡島」、「西武」、「丸井」と百貨店が連ねたが、今は「そごう」のみとなった。今迄でも出店に際してはあらゆる方法をもって調べ、臨んだと思うが、何とも不思議な怖さを感じる。

昭和三十五年の都の統計年鑑に参考になる数字が出ている。

商店の販売額 (円)

八王子	28,117,530
立川	21,074,956
武蔵野	15,242,825
府中	4,573,711
町田	5,930,058

現在の数字が不明なので比較は出来ないのだが、時の流れは想像が出来ないほど早い速度で動いている。

立川、町田、武蔵野の三市は今、八王子の上に位置しているのではないかと、思われる程の勢いに満ちている。

八王子の地面は大きすぎて、大変だ。

◎連載 ガンの検診について思う その1

長町 幸雄

はじめに

1998年、厚生省(現厚生労働省)は老人保健法で義務付けられた全国市町村で実施している5種類のがん検診に対する国の負担金を打ち切った。この年に筆者も定年退官となった。また、厚生省が組織していた「がん検診の有効性に関する研究班」が、肺癌、胃癌、乳癌、子宮体癌の検診では有効性が証明できず、大腸癌と子宮頸癌には有効性があるとの内容を報告した。

今はがん検診の見直し時代に入ったようである。

小稿で私が選んだテーマのヒントをまず紹介しておきたい。

第39回日本癌治療学会総会(2001年・広島)で峠哲也会長が企画したパネルディスカッションのテーマは「癌検診の問題点」であった。このテーマの選択は、がん検診の検証を果敢に試みた、時宜を得たものであった。不肖私は会長から特別発言を命ぜられた。この機会を与えられた時は、直腸癌で手術後7ヵ月目、直腸機能障害(4級)と回腸による人工肛門を持つ身障者であ

った。後述するが、群馬県でがん検診のリーダーシップをとっていた現役時代には自身に課していた検診を、わずか3年間留守にした後の癌発見であった。癌を媒体にした医師と患者の一人二役の体験記を表題に選んだわけである。

1.健診と検診考

健康診断を指す「健診」は、病気の早期発見や健康状態の把握を目的にした検査であり、労働安全衛生法で義務付けられた職域健診や、老人保健法で義務付けられている地域健診などがある。他方、「検診」は、がん検診のように特定疾患の有無を調べる点で内容が異なる。健診も検診も、受診者が病気を意識しない段階で医師の診察を受けることに関しては同じである。

時代を遡り、1979年「消化管の健診を考える」という特集が『胃と腸』誌上に組まれていた。そこでは消化管癌の他にも肺癌、子宮癌、乳癌、前立腺癌その他の癌も取り上げられていた。特集のとりまとめをされた市川平三郎先生は、“「健診」とは、医師が外見病気でないものに対し健康か否かを診断することである”と定義され、さらに「目標は遠いが、時には夢を追って可能性を追求してみようではないか」といった意味の言葉を添えていたのを思い出す。もちろん夢の意味するところは、がん検診であり、早期癌発見法であり、その方法の敷衍を意識していたはずである。

2.がん検診は往く ～検診の勧めとその矛盾

前述のパネルディスカッション「癌検診の問題点」で討論された内容に改めてスポットを当ててみよう。

登場した11人のパネリストたちが対象に扱った癌の種類は異なったが、従来から用いられていた検診手法を基礎にしながら、結果の解析に工夫を凝らしたものから、独創的・計画的に早期発見に役立つ方法を追求しているものまでさまざまであった。概して検診手段は完成の域に達している感があった。私のまとめの一言は「検診の過去から現在までの成果に満足せずに、理想を目指してさらなる新風をがん検診に吹き込むことが大切であろう」であった。

ここで、集団検診が容認される条件は何か?について考察してみたい。前述のとおり、早期診断技術は既に完成に近いはずである。しかし、それらの方法を駆使して無症状の不特定多数の集団の中から癌の拾い出しに必ず成功するとは限らないし、「診断できること」と「発見できること」が同義でないことも歴史で明らかである。私見を述べさせていただくと、集団検診が容認される条件として①一次的な発見方法が容易であり、②正確度が高く、③費用と手間と発見率などを基にして計算できる効率が許容可能な範囲などの場合であろう。がん検診の矛盾点は、外来受診患者のうちで、がん検診と人間ドックのいずれをも定期的に受けていない人に対し、「ついでに胃も腸も調べておきましょう」と言い出せない保険診療上のタブーであろう。私も人間ドック的な検査を外来で行うことはできない捷を破る違法行為は行わずに、年に1回の検診または人間ドックを受けることを勧めてきた。「楽しい付き合いや旅行を1回省いてでもお願いします」と懇願したことが一再ならずある。ただし、検診を受けていれば100%必ず癌から逃れることができるとは限らない。私の場合のように、恐らく過去に行った検診という名の捜査網から逃れる癌もあるはずだからである。
(続く)

プロバスだより100号を記念して

－輝ける会員諸氏の足跡－

幹事 下山 邦夫

歴代幹事の方々の骨折りで幹事の手元にプロバス便り第1号からのファイルが引き継がれています。ついでに言い添えると、八王子プロバス準備会便り1～4と東京八王子プロバスクラブ創立総会次第も付いています。今号100号の節目に幹事からひと言纏めて置いたらどうかとのアドバイスがありましたが、第1号に幹事よりの記事があって釣り合いがとれてよいので引き受けました。

ファイルを捲り返して見て思うことは山ほどありますが、最も痛感させられるのは、当初から会員の皆様が、充実したクラブにしようと思い、活動して来た様子が紙面上に滲み出ていることです。歴代情報委員会の方々のご苦勞はこの生々しい記録が残っていることで報われるでしょう。

今後も200号、1000号に向けて、生きている我がプロバスクラブの、そして会員が活用し頼りになる便りとして、担当の方々のご奮闘を祈ります。第1号に載っている幹事の言葉を借り、「情報委員のご尽力もさることながら、会員諸氏のご協力をお願いします」と申し添えましょう。輝けるプロバス会員の足跡が残り続けますように。

☆第100回例会議事録

日 時：平成16年2月12日（木）午後12時30分～14時30分

場 所：エルシー八王子

出席者：53名（出席率85%）

司 会：田中例会委員長

来 賓：八王子南ロータリークラブ 加賀谷恵会長、廣瀬武彦幹事

1. 会長挨拶

今日はほんとうに、スプリング ハズ カムといった感じでしょうか、そんな中、本日は記念すべき100回の例会となりました。

八王子南ロータリークラブの加賀谷会長、廣瀬幹事さんが、お忙しい中、毎回ご出席を賜り、ほんとうに有難うございます。

皆さんに義理チョコをお配り致しました。私達の時代は、チョコレートに対する思い入れがあります。昭和1桁の人間からちょっとあとの人達には、終戦直後、進駐軍が持込んできたハーシーの板チョコには特にそうだと思います。神戸では食料のかわりに、コンビーフ、ハーシーの板チョコ、バターが配られました。チョコというとハーシーのチョコレート、そのあと明治のミルクチョコレートの思い出があります。

さて、情報委員長はじめ、プロジェクトの皆さんが立派なホームページを立ち上げてくれました。後ほどプロジェクターで皆さんにお目にかけるようになっておりますので、忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。

そしていよいよ学習サロンも2週間後になり、地域奉仕委員会をはじめ皆さんの努力で今年もグランドテーマ“緑と環境”ということで、先日も、新聞に面白い記事が出ておりました。米・欧の学者が集まって地球温暖化がいまのレベルで進行すれば、50年先には地球上の37%の動物が死滅する。但し人類が努力して、温暖化防止に努めれば17%にとどまる。これに対して、逆の意見をいう人もおり、動物は環境が変わればそれに適応出来る。従ってそんなに死ぬことはないという。

学者達が喧喧諤諤やっておりますが、私達も地球温暖化防止に努めねばなりません。今回は東京緑化推進委員会の室長が私達のすぐ回りの緑についていろいろお話を頂けるので、とてもよい勉強が出来るのではないかと考えております。一人でも欠席のないよう参加頂きたい。

順次、春が来ていろいろお忙しくなってくるとは思いますが、健康に留意して頑張って頂きたい。

2 来賓挨拶 八王子南ロータリークラブ加賀谷会長

立川会長に義理チョコのお礼の言葉のあと、プロバスの例会には任期まで皆勤で出席したい。また、ロータリーは毎週ですが、習慣付ければそうでもない。

時間を作るということは最初は大変だった。毎週であるが社員がロータリーの例会を忘れ、スケジュールを入れてしまうことも度々あった。しかし時間が経つと社員も理解をしてくれ、仕事のスケジュールをあけるようになった。

そこで時間とはどういうものか考えてみると、有態に言えば、地球が46億年前のビッグバンで出来たとき、そこに空間が出来て、初めて時間が生れた。我々日常生活では10分遅れようが、進んでいようが、さしたる影響はない。

たとえばJR駅の時計も、商業周波数といって新潟の糸魚川から静岡の富士川を結ぶ線の以北を50ヘルツ、以南が60ヘルツとなっている。

これは明治維新に関西電力の前身の会社がアメリカから買った発電機が50ヘルツ、南側の方はドイツから買った発電機が60ヘルツということで今日まできている。この周波数をベースに時計は作られており、従ってある意味ではかなりいい加減である。秒単位でみると大幅に狂っているが時間単位軸でみると安定している。現実には1~2分狂っていようが列車の運行には支障はない。

この時間は、地球の公転365日、これを時間の軸として1日24時間、1時間3600秒と決めた。これは1967年前の話であり、その後地球規模で人間の移動が活発になり、どこかで絶対的時間が必要になってきた。2003年6月に産業総合研究所が絶対的に近い時計を作った。これはヘリウム原子をもとにした大変正確なもので20000万年に1秒狂うかどうかというもので、日本が初めて外国から与えられないで独自に作ったもので、世界に4~5個しかないというものである。

今日は時間というものについてお話いたしました。

3 幹事報告 下山幹事

- ① 5月16日(日)の「市民健康の日」に市民健康づくり協議会が富士森グラウンド、市民体育館を中心にイベントを行なう。当クラブから総務担当として下山、鶴田、宮崎の3名が参加する。なお他のメンバーにも手伝いを依頼することもある。
- ② 3月28日(日)に東海大学八王子病院で健康づくりのシンポジウムが行なわれるが、これには当クラブは参加しないがこの種の催しがあることを伝えておく。
- ③ 学習サロンでのビデオ撮影をすることを決定。撮影製作はアマチュア映像連盟の西沢会長に依頼。以上3点の報告があった。

4 委員会報告

(1) 会員委員会(中野委員長)

- ① 本日配布の名簿(2ページ)にやや見にくい点あり次回までに修正する。

② 親睦旅行の件

(イ) 場 所: 新潟県柏崎刈羽原子力発電所

(ロ) 日 時: 6月16日(水)~17日(木) 1泊2日

(ハ) 申 込: 3月例会で受付予定

(ニ) 担 当: 研修委員会、会員委員会

最低でも40名程度は参加して欲しい。

③ 退会届 会員No61 小山 祐三氏

(2) 情報委員会(武田委員長)

- ① 当クラブのホームページをプロジェクターを使用してビジュアルにその概要を紹介。

- ② プロバス便り、今回は100号記念となる為、良い企画、アイデアを募集

- ③ 学習サロン記録者の変更

なお、ホームページに関して会員から気づいた点並びに提案があればその線に沿って検討する。

(3) 研修委員会(矢崎委員長)

特になし

(4) 地域奉仕委員会(宮崎委員長)

- ① 学習サロンに関して

- (イ) 受講票については開講式当日に渡す。
 - (ロ) 会員のテーマ選択、本日中に提出して欲しい。
 - (ハ) 一般会員の応募72名(前回差5名超)
 - (ニ) 各委員会、各メンバーへの協力依頼
 - (ホ) 井戸端会議のデータとして使用する為のアンケート用紙の配布。
- (5) 例会委員会(田中委員長)

- ① 本日の出席状況: 会員62名中 53名出席 出席率85%
 - ② 学習サロン開講式: 2月26日(木)13時30分 当日は昼食なし
- 次回例会: 3月11日(木) 通常より30分繰上げ12時より開催。 サロン開講は14時。

5 卓話 野口正久会員



テーマ「二つの古文書から学ぶ」

「憲法発布と養老金下賜」「建家売渡證」 野口家に伝わる明治22年の二つの古文書に基づいて卓話が進められた。

「憲法発布と養老金下賜」について

養老金を下賜された木寄ナヨなる女性は存在しない。野口ナヨの誤りではないか、どうして間違えたのかは不明である。この後木寄ナヨ及びその関連する系譜の詳細な説明。

また、この文書の印が、下川口村、上川口村、犬目村、檜原村、山入村戸長役場印となっており、江戸時代の村名がそのまま使われてお

り、合併前の連合役場印となっている。

何故このような養老金下賜されたかを考えてみると、木寄ナヨが77歳の喜寿でそのお祝いと明治憲法発布の国民へのPRの意味合いがあったと推測される。

この時代は、前述の明治憲法発布の年でもあり、町村合併があり、更には明治18年頃に起きた困民党事件の指導者の特赦もあった。八王子―新宿間の甲武鉄道の開通もこの年であった。

「建家売渡證」について

野口由蔵から野口則久への売渡證であり、文書には既に川口村犬目野口由蔵となっている。内容は居宅、長屋等の売却代金を40円で売渡すというものである。

興味深いのは土地の売買よりも家・屋敷の配置、構造であり、自給自足の生活をみることが出来る。例えば屋敷の周囲の竹やぶ(竹の子、籠の材料等)、やぶ椿(食料、灯油)、樫の木(炭)、敷地内の渋柿(食料、渋紙)、お茶の木、ゆず、といったものである。更に家の間取図をみると畳の部屋が“おかいこ”の部屋に変わる等、当時の農家の生活振りが伺える。

このように明治憲法発布以降社会的にも大きな変化があった。具体的には明治22年には所有地の登記が行なわれた。江戸時代・明治の初めの農民は畑・土地を一つの道具として考えていた。金にかえるものとか、財産という考え方はなかった。このような考え方は今でもあり農村改革はこれを理解しないと出来ない。

こうした考え方が変わってきたのは戦争が契機となっている。一つは配給制度であって農家も米を食べられるようになった。そして戦後の農地改革によって一つの財産として、金に替えられるものに変化してきた。

戦前は95%が農民の時代であり、それが現在では4~5%の時代に変わってきた。その結果自給自足の国家から食料輸入国家へと変わってきた。

そんなことを考えながらこれらの古文書をみてきました。

6 その他

ゴルフ同好会 橋本会員

第8回プロバスコンペ開催についての案内

- ・ 日時: 4月15日(木)
- ・ 場所: 相武カントリー
- ・ 参加予定人員: 20名5組

7 プロバスソングの斉唱

8 閉会のことば 大高副会長

浅田次郎「壬生義士伝」を読んだが、一貫して武士道を貫くというテーマである。武士道とは己を犠牲にして人を助けるといふ精神であると思う。米国でもこれが見直されてきているのか「トワイライト・サムライ」（たそがれ清兵衛）がアカデミー賞にノミネートされたりしている。

武士道というと「武士の情」という言葉がある。情けとは思ひやりである。思ひやりの心をもって支えあう仲間になろうと思う。今日は100回の記念すべき例会、これをもって閉会といたします。

☆第8回生涯学習サロン開講



2月26日、東京八王子プロバスクラブ主催、八王子市、八王子市教育委員会後援の第8回生涯学習サロンが始まった。今回、通年で8年目となる。今日のプログラムは開講式と特別講話である。参加者は会員を含め101名の盛況であった。

会長の開講挨拶の後、来賓として、黒須隆一八王子市長殿、加賀谷恵東京南ロータリークラブ会長（代理大野聖二）殿のご挨拶があり、式が進行した。



その後、今回サロンの話し手の紹介とそれぞれの話し手から自分のテーマの概要の説明があった。

今回は共通テーマとして、やさしい環境作り「自然と緑」の講座が盛り込まれている。

特別講話は「森林は私たちの大切なパートナー」と題して、矢野好彦氏（東京緑化推進委員会緑化推進室室長）の話があった。はじめに、昨年9月、東京MXテレビで放映された「森林の現状」をビデオで視聴し、東京多摩の森林の現状と保全のための取り組みについて理解する事ができた。東京の総面積の36%が森林という数字は以外に知られていない。「東京都森づくり推進プラン」についてレジュメと資料により詳しい解説があり、また「緑の募金」事業の紹介があった。

水源涵養地として、水害防止のため森林地域の保全は大切であり、恩恵を受ける1200万都民がもっと考えなければならない課題であると感じた。

3月の生涯学習サロン日程

第1週 3月11日（木） 14:00～16:10

続・美術あれこれ裏話	岩岡 茂之
平成16年を占うー音訓占い	大野 聖二
幕末を戦った多摩人	野口 正久
カナダと自然	矢崎 安弘

第2週 3月25日（木） 14:00～16:10

歌唱の楽しみ	五十嵐 淳
痴呆ーその理解と対応	石田 正巳
お金と私たちの暮らし	佐々木研吾
楽しいガーデニング	西久保哲夫

投稿

カリフォルニア ・ドライバーズ・ライセンス

田子 稔

昭和32年(1957)、私は第一回の駐米勤務でサンフランシスコに赴いた。生活に欠かせないものは先ず車。

早速友人に教わり運転の練習を開始。まず筆記試験を受けた。私の前列3名(勿論米国人)は3人とも落第。外国人の私は合格。実地試験も合格。早速ポンコツの中古車を買った。

当時、米国には車検はないため、中古の当たりはずれは激しい。ある日の夕方、私はシスコ郊外の片側2車線の一般道を走っていた。日本のような渋滞はなく、前方後方とも私の視界には車の姿はない。と突然、私のポンコツ車がエンジン故障でへたり込み全く動かなくなってしまった。周辺は林と海辺が続く人家はない。杞憂が現実のものとなり、私も車の外でへたり込み途方に迷ってしまった。ところが、である。しばらく経って遙か被方から近寄って来た後続車がピタリと止まり、ドライバーが駆け寄り事情を聞き、早速彼の手持ちの発煙筒を3本ほど発火してくれた。又、その次の後続車も止まり、同様に発煙筒を発火し数マイル先の民家に私を運び、電話を借り牽引車の手配をしてくれた。

米国赴任三ヵ月後の出来事である。これが私の第一回目のカルチャーショックだった。

その後種々のカルチャーショックの洗礼を受けたが、その過程で感じとった事の一つは、私はクリスチャンではないが、ピューリタンたちにより建国されたこの国の人達には、「無償の隣人愛」「富は神からの預かり物」等を始めとしたプロテスタントの教義と価値観が幼い子供の頃から体に染みついているのではないだろうかと言う事である。

例えばプロバスの母体の米国ロータリークラブでは、国旗に忠誠の宣誓を行い、第二の国歌アメリカ・ザ・ビューティフルを合唱し、その一節[神は兄弟愛をあなたの善の冠として授けたもう]を繰り返し歌い、例会が始まる。麻薬に汚染され、銃による殺人等多数の凶悪な犯罪が一方にはびこり、力を背景に強引な駆け引きで自国の権益を主張する米国を賛美する積もりはないが、古き良き日本の文化が敗戦により全面的に否定され、教科書が真っ黒に塗りつぶされ、心の拠り所を未だに失った儘の我が国と比べ、歴史は僅か二百数十年ではあるが建国時の教義が脈々として多数の人の心の奥深く受け継がれているアメリカが、ロスト・ジェネレーション世代の私には羨ましい。

私の前列3人の人達は筆記試験で落第したが、私には未だ本当の意味のカリフォルニア・ドライバーズ・ライセンスを貰う資格はないようだ。

投稿

読書情報誌

武田 洋一郎

書店は何時行っても、老若男女、人が多い。八王子駅界隈には大きな書店が4つ、駅の北口に3店舗、南口に1店舗ある。本屋へ行く目的は勿論、新刊書の購入や本の探索ということだが、もう一つの楽しみがある。

それは出版各社が発行しているA5サイズの小冊子(読書情報誌といっている)の収集である。

図書(岩波書店)、本の旅人(角川書店)、波(新潮社)、ちくま(筑摩書房)、本の窓(小学館)、本(講談社)、青春と読書(集英社)、一冊の本(朝日新聞社)、草思(草思社)、星星峽・ボンツーン(幻冬社)、未来(未来社)、UP(東京大学出版会)、本郷(吉川弘文館)……などなど。

本来は各社が出版する図書のサマリーを紹介するための冊子だが、所謂、図書目録あるいは刊行物目録とは違って、中身がとても濃いのである。

自薦・他薦の書評、インタビュー記事、随筆、対談、連載もの、小論文、エッセイ等、様々な態様の内容でとても面白い。勿論、新刊・近刊の紹介記事もある。執筆者は作家、評論家、詩人、各界の専門家等々バラエティに富んでおり、このなかの連載小説が単行本になるケースも多い。

ほとんどのものは頒布価格が税込み100円(幻冬社は200円、集英社は90円)であるが、大型書店ではこれらをサービスで無料配布してくれているのである。

内容の一例を示そう。

「草思」2002・9月号は特集で「日本人の顔、いい顔わるい顔」を掲載している。

昔の日本人の写真を見ると「いい顔をしているな」と感心してしまう。幕末の武士や町人でも風格がある。最近ではこういう顔はめっきり見かけなくなった。…という書き出しで、各界の専門家がそれぞれの立場で論じている。

日本人の顔はどのように変わったか 馬場悠男
(国立科学博物館人類研究部)

醜男論、美人論 小谷野敦
(明治大学講師)

流行の顔、イマドキの顔 津嶋敬介
(ホリプロ・マネージャー)

顔を変える楽しみ 折登岑夫
(オリト・クリニック院長)

それぞれのテーマはなかなか含蓄があり、面白く読めた。政治家の顔をみても戦後の吉田茂、岸信介といったいかにも政治家らしい風格のある顔が今は見られない。

食物を噛む力は、普通は体重とおなじくらいだが、最近の子供たちは平均で体重の半分かくらいの力しかなく、軟弱な顔になっている。今の日本では小顔がもてはやされているが、食生活の改善等、未来の顔は私達大人の責任で守らねばならないと結んでいる。かように知識の宝庫ともなる情報誌であり、皆さんも是非お手にとってみられたら如何だろうか。

がん検診について思う その2

—医師の立場、患者の立場からの雑感—

長町 幸雄

3.がん検診と保険外診療併用の問題

最近、規制緩和を巡って、健康保険による診療と保険以外の診療との併用、すなわち「混合診療」の問題が議論的になっている。日本の保険制度は国民皆保険制、現物給付方式およびフリーアクセスが特色である。

したがって日本では混合診療は禁じられている。ここでもがん検診にスポットを当てて考えておきたいことは、一次検診で正確度に疑問を生じさせないため、より優れた癌発見を熱望する人には、初めからその経費を自分で負担してもらう以外にはないであろう。もちろん自ら進んで高い検査費用を支出することも厭わないで、わが身を癌から守る手段の選択肢として最初から精密検査レベルの癌検査法に身を委ねれば、そのメリットはあるはずである。癌を対象にしない場合でも、川島康生氏のように、“混合診療の導入が他の患者への医療水準を低下させず、全体の医療水準の引き上げともなる”と提唱しておられる学者もある(読売新聞、論点、2003年3月13日)。

これに対し、混合診療に警鐘を鳴らす立場からは、混合診療が日本の医療保険制度を破壊することになる。

お金を持っている人だけが良い医療を受けられることになり、米国のように低所得者や高齢者などの弱者は切り捨てられる”という桜井秀也氏のような批判もある(読売新聞、論点、2003年3月28日)。

混合診療の賛否を筆者は問題に取り上げるつもりはないが、こと癌の検診に関しては癌発見の遅れが一個の生命リスクの拡大と死を意味する内容も含むので、早期診断には自費での精密検査を受ける行為を制度を盾にして中止させる必要はないと考えている。例えば悪いが、身体を乗せて運ぶ自家用車の車検に黙って大金をはたくことには無頓着であるのに、家族の悲劇を招く可能性もあるわが身の点検には投資をためらう感覚には賛同しかねるのである。

4.がん検診と私とのかかわり

私は定年退官した1998年3月まで群馬県民健康会議大腸癌部会長の職を兼ねていたが、在任中に担当県職員や県内自治体などに対して提案・実施を依頼したことがいくつかある。それらを要約すると、①検診では被検診者を増やし、②費用効率がよく、③正確度で満足できるスクリーニング法の開発に努めること、④要精検対象者には、受診日と診療施設の可及的早期通知の徹底、⑤精密検査には全大腸内視鏡検査を標準視野に入れ、⑥施設間での検査手技の不均一を避け、⑦

これら検査のルーチン化に対応できる医師の訓練を広く頻回に実施することなどであった。実はこれらの施策の成果を確認できずに業なかばにして定年退官、臍をかんだのである。不可思議なことに、対癌施策の音頭取りをしていた私自身が直腸癌になったのである。

対癌活動停止後3年目であった。

5.がん検診の体験から得た落ち穂拾い

前項で、正確度で満足できる癌スクリーニング法の開発の必要性を取り上げたが、この問題は、手段を見直せば従来から用いている同じ検査法でも精度の向上が得られるはずであると予測はしていたが、広島でのパネルディスカッションを聴取して確信に変わった。しかし、がん検診の経済的評価は、わが国で検診が続く限り、常に関心を持っている必要があろう。

検診の広報活動や教育の徹底的普及は、現状に鑑みても努力が必要なピットホールである。がん検診の「原点」は、実施する側の技術の向上と陶冶であり、これなしでは診断精度の向上は得られないこともまた事実であろう。

6.がん検診の未来展望とその問題点

既に米国では、21世紀に入り約20個の癌関連遺伝子が検査できるようになり、健康にみえる人が癌になるリスクの見積もりも試みられるようになっている。特定の癌を初期段階で発見することも可能になってきたようである。

近未来には、がん検診に遺伝子が導入される事態が招来すれば、遺伝子診断の内容や信頼性、結果の解釈などについての統一訓練も必要となる。何よりもプライバシー保護などが今よりも厳しくなり、対策も急務となる。新たな問題点を挙げれば際限がないが、いくつかを例示してみよう。癌リスクが高いことが告げられた個人は保険加入、雇用、結婚などの社会問題が、従来は考えられなかったレベルで問題になり、各種の差別も派生する。何よりも、遺伝子診断の高コストが問題になるであろう。それを負担するのは誰か？ 国か保険会社か個人かなどの問題が起こる。

診断の対象が問題となるとすれば、差し当たり、家族に特定の癌発症者のいる人が対象になるであろう。その他、診断を拒否する権利のある個人に対する対応も大切である。遺伝子の使い方がデメリットにならないことを望みたい。「時には夢を追って、可能性を追求してみようではないか」と市川平三郎先生が約20年前に唱えたがん検診の夢の実現が眼前に迫ったようである。ただし、個人情報保護も同時に重要課題となることは、ポール・マーク氏(米スローン・ケタリング記念がんセンター名誉総長)の予言しているとおりでであろう。

7.医師の立場、患者の立場から癌を考える

「他人事ではないがん検診」という言葉から、この項は話を進めたい。私事で恐縮だが、定年になって生まれ

故郷に帰った。この地域は昭和4(1929)年から終戦後の昭和23(1948)年まで亡父が八王子市で開業外科医として活躍し、絶大な信頼を得ていたところであり、今なお多数の父を慕う古老が住んでおられる。ありがたい迷惑といっは申し訳ないが、これらのお歴々や小学校時代から高校時代を通じての同窓生などが、親父のように地域医療に貢献してもらえるものと、不肖私に過度の期待をして待ちかまえていたのである。

悠々自適の夢は破れ、若干の名誉職の他に地域のボランティア活動の生活を始めることになった。紙数の都合で詳細は省くことにするが、私の小学校～高校時代の級友が既に理事となって活躍していた東京八王子プロバスクラブ(ProfessionalとBusiness-manの頭文字をとった合成語)に誘い込まれた。高校時代の同級生Y.S君とM.K君の勧誘の殺し文句は、「第一線を退いた専門的職業人や実業人たちが、その豊かなキャリアを活かしながら、互いに親睦を図り、社会に貢献する非政治的、非宗教的、非営利的な団体だから、君にはうってつけだ」とのたまった。かくして私は医療知識を駆使して医療コンサルタントをもって市民に貢献することになった。

まもなく前記のY.S君とM.K君は、2年以内に癌で他界した。両君の他にも出身小学校を異にする高校同窓生が3人いるが、私を含め4人中2人が癌(肺癌と直腸癌)の術後であり、クラブの健康管理責任者の対癌戦略は複雑で多忙を極めている。平均年齢69.8歳、会員数64名のクラブの会長職を1年前に辞したが、25%の会員が癌の経験者である事実は、高齢社会の縮図ともいえる。既に失った前述の友人の死に際しては、「この悲しい現実を踏まえ、癌の恐さを改めて認識しよう」と癌の手術を終えたばかりの会長の私が弔辞を述べたのも奇怪な話であろう。こんな経緯もあって、私のアドバイスは“楽しい旅行を1回省いてでも自費による癌検査(精密検査)をしてみよう”に変わった。

8.私が今一番困っていることは何か

各地で行う市民公開講座で「私は自分で自分に癌告知をした」話をするにしているが、講演の後で、「先生は自分が医師でありながら、なぜ癌になったのですか?」しかも「ご自分の専門の病気で手術をなぜ?」という質問を受けると情けなくなる。答えはこうだ。「医者も人間だから。病気も、自分が診療に携わってきた患者さんと目線を合わせて、一緒に味わっているのさ!」とうそぶき、開き直っている。医師も患者の立場になってみると、患者の心の痛さを感じることができる。本当に。「人にとって癌になることは、長寿の証である。今後、超高齢社会に突入すると、個体を構成する細胞数70兆もある人の生存にかかわる機能を持つ遺伝子のわずかな破綻により、異質の生命体である癌を生じるポテンシャルが増すからで

ある」と説明して済ませてきた従来の「医師の立場」に、さらに次の「患者の立場」のエピソードを加えている。

2001年3月、日本高齢消化器医学会議主催の第2回市民公開講座で、「直腸癌を見逃されないための要諦は、お医者さんに必ず肛門指診をしてもらうことです」と聴衆に呼びかけたので、帰宅後入浴した折に、念のために自分で肛門内に指を入れ、言行一致を企てた。肛門から10センチ離れた部位に腫瘤に触れて愕然とした顛末を語っているのである。現在は再発も転移もないことも付言するが、患者の痛みがわかり、「従来よりも講演内容に真実味と凄みが加わった」と言われている。

おわりに

日本癌病態治療研究会の和文機関誌『WiWaves』編集委員長の生越喬二教授から執筆のご用命を受け、たまたま本年7月に開催される第12回日本癌病態治療研究会の当番世話人が広島大学・峠哲也教授であること、『WiWaves』の発行がその機会に合わせて行われることを教えていただいた。題名は何にと考えた末、「癌検診の問題点」のテーマで、峠哲也教授が企画されたパネルディスカッション(2001年・広島)に参加させていただいたのも何かのご縁と愚考し、自身の癌体験を合わせて筆を執らせていただいた。

近況

今が一番若いと思っている。国内医学関係では日本消化器病学会理事、日本実験潰瘍学会理事、東京医大がん研究事業団理事などとして、地域医療では日野市立病院運営協議会会長として微力を注いでいる。

国際的にはDeputy Governor of the American Biographical Institute (USA)およびDeputy Director General of the International Biographical Centre(U.K)などの他にFellow of the American College of Surgeonsとして活躍中である。

日本癌病態治療研究会誌WiWaves Vol.9 No.1
2003より

- ◎第1回例会
- 日 時 1995年11月9日 午後6時～9時
- 場 所 エルシイ八王子 4階ホール
- 出席者 会員 31名 ビジター (八王子南R.C) 5名
- 例会内容 司 会: 立川会員
- 開会挨拶: 大野会長
- 来賓挨拶: 増田南R.C会長
- 出席南R.C会員の紹介、挨拶
- プロバス賛歌発表
- 会食・歓談 (大道芸披露)
- しり取り漫画と1分間スピーチ
- テーマ『いま興味・関心を持っていること』
- 閉会挨拶: 藤野副会長

復刻版

◎興味をお持ちか、してみたいことの集約 (アンケート結果)

順不同

ハイキング	志茂 濱野 藤野 山田 大野(幸) 岩岡 田中 田淵	国内旅行	梅木 清水 田淵 北原 石井 平原 森下 志茂 立川
ゴルフ	志茂 濱野 北原 大野(聖) 田子 岩岡 加藤 大山	海外旅行	志茂 立川 北原 平原 清水 桂
社交ダンス	森下 藤野 梅木 清水	書道	田子 梅木 清水 田中
テニス	梅木 加藤	茶道	小町
スキー	濱野 石井	写真	石井 桂 田子
登山	藤野 石井 森	陶芸	田子 山田 桂
食べ歩き	米田	庭いじり	石井 大野(幸)
郷土史研究	大野(聖) 田子 山田 小町 田淵 森	盆栽	石井 加藤
史跡探訪	清水 桂 岡田 田淵 北原 田子 大野(聖) 小町 岩岡 森	俳句	志茂 大野(聖) 加藤 大山
囲碁	近藤 大野(聖) 平原 加藤 大野(幸)	吟詠	大野(幸) 田淵
将棋	田子	音楽鑑賞	立川 近藤 北原 平原 岩岡 清水
手品	大野(聖) 田淵	美術鑑賞	立川 田子 小町 岩岡 田淵
カラオケ	森下 志茂 藤野 梅木 米田 小阪 田中 岡田	観劇	田淵
		骨董品鑑賞	田子
		ドライブ	桂
		読書	森

◎幹事より

- 北原情報委員長のご努力で第1号ができました。これから第2号、第3号と号を重ねるにしたがって内容も、より充実したものになっていくことと期待いたしますが、これを進めていくのは情報委員のご尽力もさることながら、会員の皆様がこれに盛り込む取って置き「ネタ」を提供して下さることが一番だと思います。プロバスだより発行のお祝いを申し上げますとともに、今後の皆様のご協力を切にお願いいたします。
- 郵便振替口座開設
この度郵便振替口座を開設いたしました。こんごの会費納入にご利用下さい。
口座番号—00150-7-42971 名称—東京八王子プロバスクラブ

編集後記

第1回の会報を作ってみました。これからも毎月、出席できなかった会員向けに、例会の中身とか、各委員会の活動状況、催し物のご案内、会員通信欄などを盛り込んで発行していきたいと思います。

皆様から会員にお伝えしたい情報や、クラブへの提言などがございましたら、どしどし事務局までお申し込み下さい。